

Part 1

大学におけるキャリア形成支援と
キャリア教育

第6章

就職支援プログラム・
講座企画

就職支援プログラム・講座企画

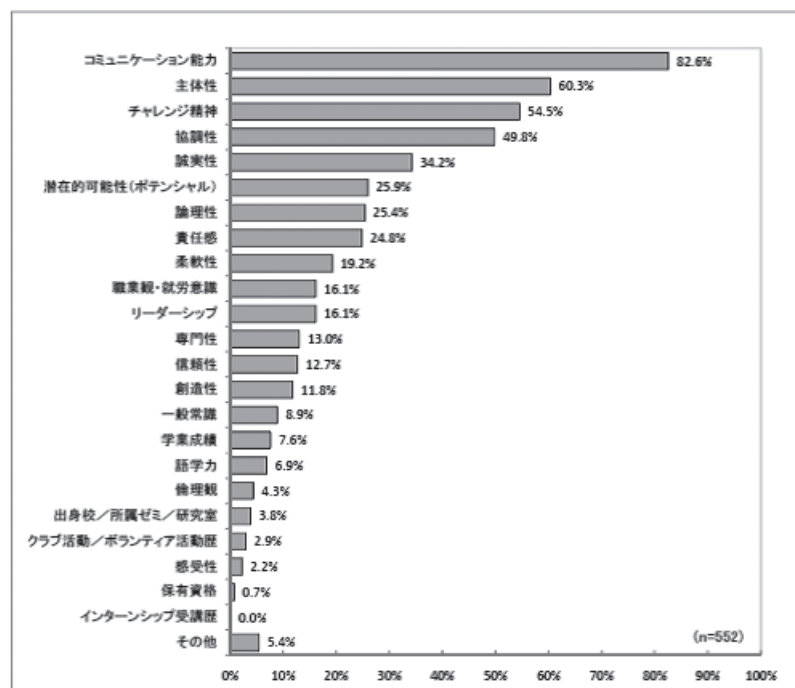
1 企業が新卒採用の際に求める能力と重視するもの

(1) 求める能力

① 日本経済団体連合会

- ・日本経済団体連合会会員企業が新規学卒者を採用する際に重視した事項としては、「コミュニケーション能力」が82.6%と最も高く、次いで「主体性」が60.3%、「チャレンジ精神」が54.5%、「協調性」が49.8%等の順になっている。
- ・企業が新規学卒者に求める能力として、近年、「コミュニケーション能力」の他、「チャレンジ精神」、「潜在的可能性」、「柔軟性」など、企業構造を取り巻く環境の急激な変化に対応する能力が重視されている。

【企業が選考するに際して重視した項目】

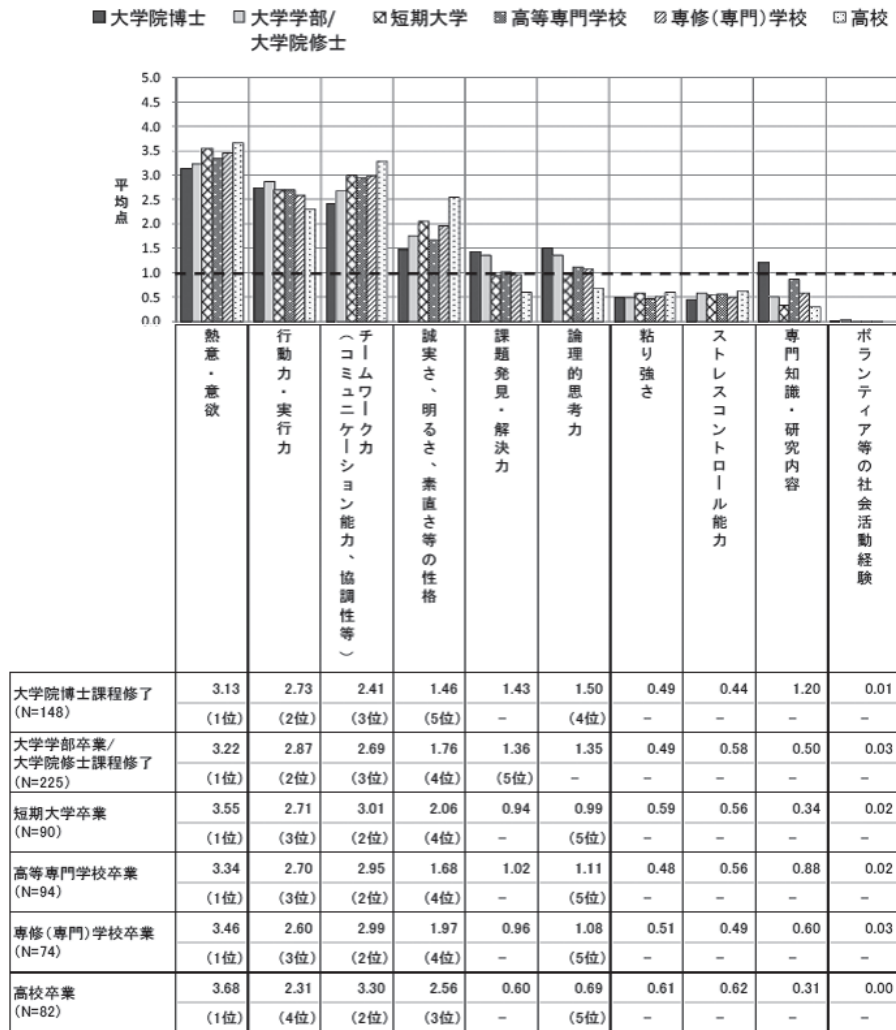


(資料出所: 日本経済団体連合会「新卒採用(2012年4月入社)に関するアンケート調査」2012年7月)

② 経済同友会

- ・経済同友会会員企業が、大学学部卒業者及び大学院修士課程修了者を採用する際に重視する基本能力、経験、資質等としては、「熱意・意欲」が3.22で第1位であり、次いで、「行動力・実行力」が2.87、「チームワーク力(コミュニケーション能力、協調性等)」が2.69、「誠実さ、明るさ、素直さ等の性格」が1.76等の順になっている。

【新卒採用の際、ビジネスの基本能力や経験、資質等で特に重視するもの】



(注)1位5点、2位4点、3位3点、4位2点、5位1点として、新卒者の最終学歴区分ごとに回答者数で加重した平均点。

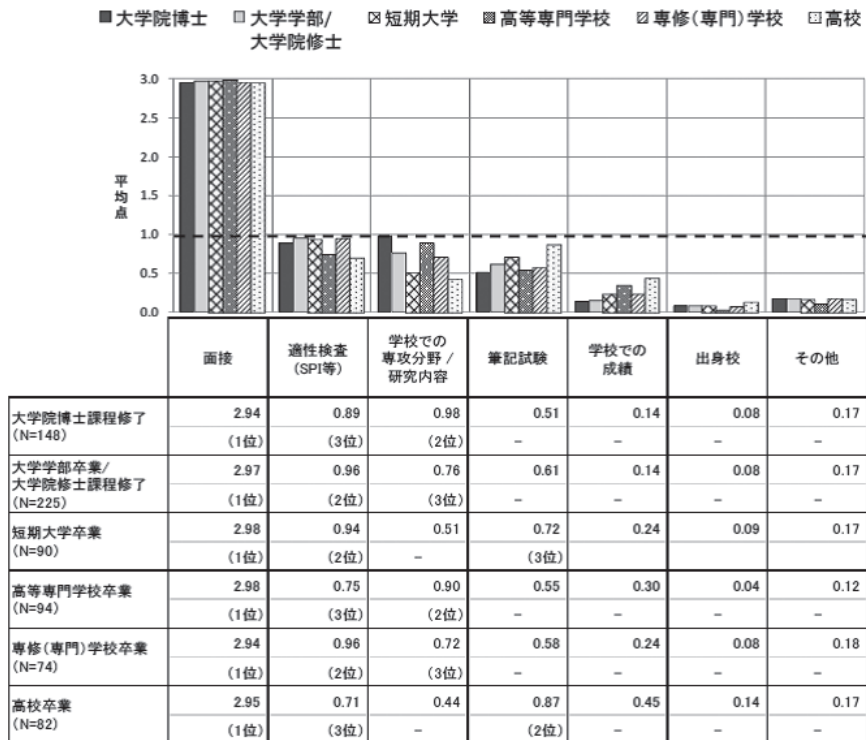
(資料出所：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査（2012年調査）」結果2012年11月)

(2) 重視するもの

- 企業が大学学部卒業者及び大学院修士課程修了者を選考する際に重視するものとしては、「面接」が2.97で第1位であり、次いで「適性検査(SPI等)」が0.96、「学校での専攻分野・研究内容」が0.76の順になっている。
- その他、複数企業から回答があった項目としては、「エントリーシート」、「学業やその他のことで注力したことや熱意を持って取り組んだこと」、「グループディスカッション」等が挙げられる。

(参照：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査（2012年調査）」)

【企業が新卒採用の選考で特に重視するもの】



(注)1位3点、2位2点、3位1点として、新卒者の最終学歴区分ごとに回答者数で加重した平均点。

(資料出所：経済同友会「企業の採用と教育に関するアンケート調査（2012年調査）」結果2012年11月)

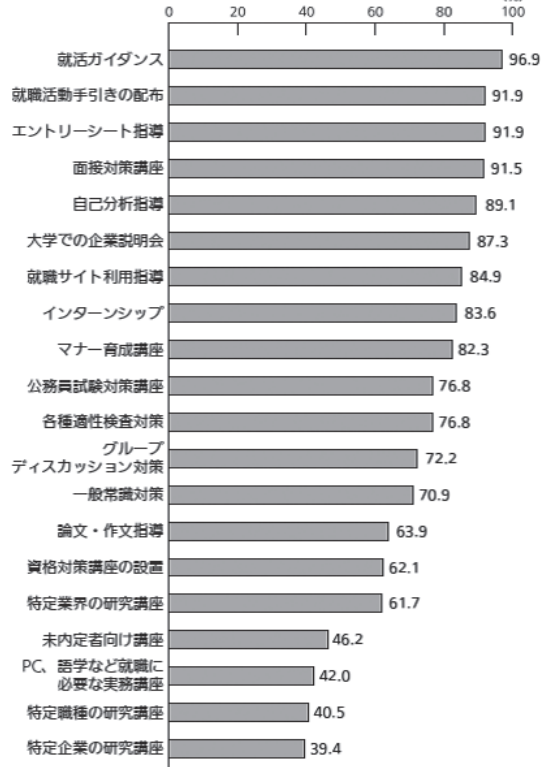
2 各大学におけるキャリア形成支援の実施状況

- 2011年度に各大学が実施した就職支援の内容としては、「就活ガイダンス」が96.9%と最も実施率が高く、次いで、「就職活動手引きの配布とエントリーシート指導」が91.9%、「面接対策講座」が91.5%等の順になっている。
- 就活ガイダンスは、「1年から実施している」大学が18.7%、「2年生を対象としている」ものが27.8%、「3年生を対象としている」ものが95.5%となっている。多くの大学で早期（1年や2年）から実施されているものは、PC・語学等、就職に必要な実務講座や資格対策講座の設置である。

【就職支援の実施状況】

図4-3-2 就職支援の実施状況（平成21年度）

キャリアセンター長



注) 対象は各大学のキャリアセンターまたは就職部門長457人。
「キャリア教育・就職支援の現状と課題に関する調査」(2010)

表4-3-2 就職支援の実施状況(学年別)

平成21年度 実施 (件数)	対象学年 (%)			
	1年	2年	3年	4年
就活ガイダンス	18.7	27.8	95.5	45.1
就職活動手引きの配布	8.8	9.0	93.6	17.6
エントリーシート指導	2.9	6.0	95.0	37.9
面接対策講座	2.6	7.7	92.6	39.2
自己分析指導	9.6	15.5	93.9	27.8
大学での企業説明会	5.5	10.8	92.5	50.1
就職サイト利用指導	4.6	7.2	94.1	20.6
インターンシップ	18.6	56.0	95.5	21.7
マナー育成講座	11.2	20.5	93.4	23.1
公務員試験対策講座	45.6	68.4	95.7	45.9
各種適性検査対策	18.2	27.1	92.9	16.8
グループディスカッション対策	3.3	8.2	95.2	28.5
一般常識対策	15.4	26.5	95.7	23.8
論文・作文指導	7.9	11.0	88.4	44.9
資格対策講座の設置	72.2	80.6	91.5	71.8
特定業界の研究講座	16.7	25.9	94.0	21.3
未内定者向け講座	0.0	0.0	7.1	91.5
PC、語学など就職に必要な実務講座	78.6	83.9	89.1	68.8
特定職種の研究講座	19.5	30.8	89.2	23.8
特定企業の研究講座	16.7	25.0	92.2	22.8

注1) 表の値は、各就職支援を「実施している」と回答した件数に占める%。複数回答。

注2) 網かけは各取り組み別にもっとも高い値を示す。

(資料出所: Benesse 教育研究開発センター「大学生データブック2012」2012年3月)

3 学生のキャリア形成支援における課題

(1) 学生の就職活動にみられる変化

- 未就職卒業者割合の低い大学より未就職卒業者割合の高い大学が学生の就職活動にみられる変化を感じているのは、「心理的負担を強く感じる学生が増えた」「キャリア・センターで斡旋できる求人がなくなった」「学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった」「就職活動を途中でやめる学生が増えた」である。

【学生の就職活動にみられる変化】

単位：％

	10%未満 N=88	10～30% 未満 N=262	30%以上 N=137
就職活動への取り組み状況の個人差が大きくなった	29.5	39.7	43.1
心理的負担を強く感じる学生が増えた ⁺	22.7	36.3	37.2
学生の就職活動への取り組みが早くなった	30.7	29.4	27.0
学生の相談が増えた	<u>25.0</u>	<u>27.1</u>	<u>21.9</u>
キャリアセンター(就職部)で斡旋できる求人が少なくなった***	9.1	29.0	26.3
学生がインターネットの情報に頼りすぎるようになった*	15.9	22.9	29.9
経済的負担を強く感じる学生が増えた	14.8	15.6	18.2
就職活動を途中でやめる学生が増えた*	6.8	13.4	20.4
大学主催の就職支援行事への出席率が高くなった*	<u>22.7</u>	<u>12.6</u>	<u>10.2</u>
学生がOB/OG訪問をしなくなった	2.3	10.7	10.9
学生の希望が有名企業に集中するようになった	4.5	8.0	10.2
学生の授業への出席率が低下した	3.4	3.4	5.1
学生の就職活動状況が把握できなくなった	0.0	1.9	5.1

注：太字は未就職卒業者の割合が高い大学のほうが「そう思うが多い」傾向が強い項目、下線は低い大学のほうが少ない傾向が強い項目を示す（記号は、+ p<0.1, * p<0.05, **<0.01, ***p<0.001 水準でそれぞれ統計的に有意な差があることを示す）。

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業者支援に関する調査」2010年8月）

（２）就職先を決定するに当たって重視する基準におけるギャップ

- ・キャリア・センターにおいて学生の就職支援をする際、学生が就職先を決定するに当たって重視する基準と、職員・スタッフが指導で重視する基準にギャップが見られる場合がある。
- ・未内定学生に特徴的な基準として多く挙げられたのは、「地域条件（勤務地・転勤の有無など）」、「企業の知名度」、「企業の業種・仕事内容で」ある。未内定に終わる学生では、特にこれらが「こだわり」となっていることを示唆している。

【就職先を決定するに当たって重視する基準】

単位：％、N=491

	指導で重視する基準	学生が重視する基準	未内定学生に特徴的な基準
地域条件(勤務地・転勤の有無など)	30.3%	87.4%	62.5%
企業の知名度	8.8%	71.5%	53.2%
企業の業種・仕事内容	81.3%	79.6%	47.0%
勤務時間・休暇・福利厚生など	29.7%	68.8%	39.3%
賃金	24.8%	68.6%	38.1%
自己の能力・適性の一致	77.8%	49.9%	34.0%
正社員かどうか	80.2%	68.0%	32.4%
企業の将来性・安定性	55.6%	68.4%	31.0%
大学での専門分野との関連	53.2%	51.3%	24.2%
OB・OGの有無・定着度の高さ	59.1%	33.6%	6.9%
無回答	3.1%	1.4%	8.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

（資料出所：労働政策研究・研修機構「大学における未就職卒業者支援に関する調査」2010年8月）

4 学生のキャリア形成支援を目的とした講座（講習）の企画と実施に向けた活動

企画書に必要な項目の例

（１）大学及びキャリア形成支援の状況

大学の状況	大学におけるキャリア形成支援の実施状況	大学におけるキャリア教育の実施状況
-------	---------------------	-------------------

（２）講座（講習）の企画

① 目的と効果		
現状の分析	課題の把握	講座を実施する目的
キャリア形成支援における位置付け	他の講座との関係（過去の実施状況）	キャリア教育との関連
講座実施の効果		

② 概要		
実施日時	実施会場	担当講師
内容	実施形態	受講対象と参加人数
タイムスケジュール	必要なツール	効果測定（方法と評価）
実施にかかる経費		

③ 告知方法		
担当者	対象	媒体
方法	時期	

④ 他部署との連携・調整		
担当者	連携すべき部署	連携するために調整すべき事項

（３）講座（講習）実施に向けた調整

調整が必要な部署名・役職名	調整すべき事項
---------------	---------

（４）講座実施の振り返り

効果の測定	改善点	今後への展望
-------	-----	--------

(5) 講座修了後の対応

受講者への対応	(受講しなかった) 学生への対応	キャリア・センターへの対応
教務部門への対応	大学経営層への対応	